

授業科目(ナンバリング)	薬理学Ⅱ(末梢-1・前臨床) (N4E233)			担当教員	西奥 剛		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本講義は、“薬理学Ⅰ”の講義に引き続き、循環器疾患疾患(高血圧症、不整脈、心不全、狭心症)、眼科疾患(緑内障、白内障、加齢黄斑変性)、泌尿器疾患(排尿障害、下部尿路機能障害)、内分泌疾患、婦人科疾患の病態を理解し、これらの疾患に対する治療薬(医薬品)の薬理作用機序や副作用について学ぶ。また、本講義では、医薬品開発における薬物のプロフィールや薬理効果を見出すための実験的アプローチによる前臨床評価法についても理解する。							①②③
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 循環器疾患疾患、眼科疾患、泌尿器疾患、内分泌疾患、婦人科疾患の病態生理を説明することができる。 (2) 循環器疾患疾患、眼科疾患、泌尿器疾患、内分泌疾患、婦人科疾患に対する治療薬の薬理作用および副作用を説明することができる。 (3) 医薬品開発における様々な治療薬の前臨床評価法について説明することができる。				中間試験 定期試験	20% 80%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
中間試験、定期試験の成績により評価する。 中間試験に対しては授業中にフィードバックする。 全講義時間の3分の1を超える欠席のあった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。							
授業の概要							
本講義では、循環器疾患疾患(高血圧症、不整脈、心不全、狭心症)、眼科疾患(緑内障、白内障、加齢黄斑変性)、泌尿器疾患(排尿障害、下部尿路機能障害)、内分泌疾患、婦人科疾患に対する治療薬の薬理作用機序や副作用について講義する。また、新たに上市された最新の治療薬についての医薬品情報も紹介する。教科書、プリント、パワーポイントなどを用いて授業を進める。また、本講義では、医薬品開発における前臨床評価法の意義と薬物の作用評価としての生化学的、行動薬理的、電気生理学的アプローチを概説する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。							
教科書・参考書							
教科書：新しい疾患薬理学(岩崎・徳山編集；南江堂) 参考書：New 薬理学(田中・加藤編集；南江堂)、ラング・デール薬理学(樋口・前山監訳；西村書店)、今日の治療薬(浦部・島田・川合編集；南江堂)、人体の正常構造と機能(坂井・河原編集；南江堂) 指定図書：新しい疾患薬理学(岩崎・徳山編集；南江堂)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
薬物の作用機序の理解や医薬品の開発には、薬理学と言う学問領域を超えて、これまで学んだ生化学、機能形態学(生理学・解剖学)および疾病学(病態生理学)などの知識を総動員して考える事が重要です。薬理作用機序の単なる記憶にならぬよう、その根拠となる基礎医学・薬学的知識を再構築し、幅広い視野で理解するように心掛けましょう。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1 2	高血圧症治療薬	生活習慣病の1つである高血圧症の病態を理解し、その治療薬の作用を学ぶ。	血圧調節、高血圧症治療薬について予習・復習しておく。	638
3 4 5 6	心不全治療薬 狭心症治療薬 不整脈治療薬	心臓の生理/心疾患の病態を理解し、心疾患の治療薬の作用機序ならびに副作用を学ぶ。	心臓の生理/心疾患の病態、抗不整脈薬・心不全治療薬・狭心症治療薬について予習・復習しておく。	635, 636
7 8	利尿薬 泌尿器疾患治療薬	尿の生成・排出の機構ならびに下部尿路機能、および泌尿器疾患の病態を理解し、利尿薬および泌尿器疾患治療薬の作用ならびに副作用を学ぶ。	尿の生成ならびに排出の機構、下部尿路機能、および泌尿器疾患の病態、利尿薬、泌尿器疾患治療薬について予習・復習しておく。	646 649
9 10 11	内分泌疾患治療薬	内分泌生理、および内分泌疾患の病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。	内分泌生理、および内分泌疾患の病態について予習・復習しておく。	673 674 675 676 652 672
12	骨粗しょう症治療薬	骨・カルシウム代謝、および骨粗しょう症の病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。	骨代謝、骨粗しょう症治療薬について予習・復習しておく。	631
13	関節リウマチ治療薬	関節リウマチの病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。	関節リウマチ治療薬について予習・復習しておく。	630
14 15	眼科疾患治療薬 薬物の前臨床評価法の概論	眼生理、および緑内障・加齢黄斑変性の病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。 薬物の前臨床評価法の意義を理解する。	眼生理、および緑内障・加齢黄斑変性の病態ならびに治療薬について、前臨床評価法について予習・復習しておく。	678 679 680 576
16	定期試験	筆記試験（60分）		

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SBO 番号/項目対応表を参照して下さい。